

令和3年度 第8回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

1 日時

2021年（令和3年）12月11日（土）午後1時～午後2時47分

2 場所

藤沢市役所本庁舎5階5-1会議室

3 出席者

(1) 委員 9人

山岡委員長、坂井副委員長、林委員、阿部委員、木村委員、細沼委員、西上委員、原田委員、鎌倉委員

(2) プレゼンテーション参加団体（2事業・4団体）

- ・特定非営利活動法人湘南食育ラボ／特定非営利活動法人 laule'a
- ・関内イノベーションイニシアティブ株式会社／株式会社フジマニパブリッシング

(3) 市側 5人

福室参事、森主幹、一瀬上級主査、緒方主査、伊佐治主任

(4) 協働コーディネーター 手塚氏

4 議題

令和3年度ミライカナエル活動サポート事業（協働コース）の審査選考（3次審査）について

(1) ヒアリング（事業説明）・意見交換（公開）

(2) 審査選考（非公開）

5 開催概要

開会

藤沢市市民活動推進委員会

（山岡委員長）ただいまから、令和3年度第8回藤沢市市民活動推進委員会を開会いたします。

初めに、委員会の成立要件について事務局よりお願いいたします。

○事務局より、委員会成立の報告が行われた。

(山岡委員長) それでは、本日は協働コースのヒアリング審査（最終審査）となりますので、この後の進行につきましては、細沼部会長にお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

協働コース審査選考部会

(細沼部会長) それでは、協働コース審査選考部会を開会いたします。

まずは、事務局より、資料確認及び本日の日程等について説明をお願いいたします。

○事務局より、資料確認及び日程等について、説明が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(1) ヒアリング（事業説明）・意見交換

①特定非営利活動法人 湘南食育ラボ

(細沼部会長) それでは早速、ヒアリングに移ってまいりたいと思います。司会進行を務めます細沼と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、特定非営利活動法人湘南食育ラボさん、「ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン」について発表をお願いいたします。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) 本日はよろしくお願いいたします。湘南食育ラボの黒川と申します。

前回の質問などを踏まえながら、事業内容などについて補足の説明等をさせていただきたいと思います。事業内容に大きな変更点はないのですが、追加して説明したい部分がありますので、そちらに関してはラウレアの若林さんから、後ほど説明していただきたいと思います。

収支予算に関して修正・追記いたしました。主に追記した点は、ラウレアさん側の経費の内訳です。細かく経費に関して内訳を書いております。スタッフの人件費や材料費なども盛り込んで詳細を記載しました。

審査員の方からのご意見にあったように、ペースト食を提供しているレストランへの視察・研修を1年目のスケジュールの中に盛り込みました。

善行地区のような場所の提供を行政に求めたらいいと思うというご意見がありました。現在の善行キッチンも市民活動推進センターの方からのご提案をいただいた場所ですので、今のところ、こちらの場所で事業を行っていきたいと考えておりますが、今

後もイベントなどで別の場所が必要であれば、積極的に相談していきたいと考えています。

ミライカナエルの2年間の終了後の事業に関しては、2年間の事業の中に、以前も記載していたんですけれども、広報活動なども盛り込んだので、少しずつでも利用者の方をふやして、食育ラボとラウレアさん、両方にとっても負担になり過ぎないようなペースで継続していきたいと考えております。

事業内容について少し補足がございますので、若林さんのほうからお願いいたします。(特定非営利活動法 laule'a) NPO法人ラウレアの若林と申します。よろしくお願いいたします。

18 ページを見ていただきまして、「支出の部」の謝金のところに適用で加えさせていただいておりますが、当事者アドバイザー謝金4名分ということで入れさせていただいております。前回の審査を踏まえまして、私たちだけではなくて、当事者のご家族のお母様方にこのプロジェクトに加わっていただいて、当事者の意見を反映しながら、また視察なども一緒に行っていただいて、私たちだけではなく、当事者の方たちとも一緒にプロジェクトにしていきたいと考えております。

もう1点、12 ページを見ていただきまして、前年度決算額が間違っていないかというご指摘を前回いただきまして、代表のほうに確認いたしました。金額が間違っておりましたので、この場で修正させていただければと思います。1億6267万5381円が正しい金額となります。大変失礼いたしました。

事業説明については以上となります。

(細沼部会長) 発表が終わりました。委員の方、何かご質問はありますか。

(山岡委員長) 先ほど、ミライカナエル事業が終わった後は、両団体にとって負担にならない程度に継続していくということがあったんですが、どの程度が負担になるのか。その状況に応じてということではなくて、ある程度見通しを立てて、こういう形でやっついこうみたいな、そのゴールに向かってやっていくという形にさせていただきたいなと思います。何かほかの仕事がふえて、負担になったのでやっぱりやめましたとか、そういう形ではなくて、その辺はどんなふうにお考えですか。負担にならない程度にというのは、どのような意図だったのかを確認させてください。

(特定非営利活動法 laule'a) 始まってみないとわからないところもありますけれども、せっかくいただく補助金ですので、この2年間の間でしっかりベースをつくっていき

と思っています。当事者の方々のお声も反映しながら、また、しっかり広報活動をしていくことで、補助金が終わった後の広報のベースができていれば、新たに利用する方たちを募っていかなくても、利用したいという声が上がってくると思いますので、しっかり広報をやっていききたいということと、レストランの運営についても、やっていけるのかというところをきちんと形を固めていききたいと思います。そうすることで3年目以降は負担にならずに、通常の運営ができるのではないかなと思っています。

あと、ユニバーサルレストランですけれども、いきなり本格的なスタートということではなくて、トライアルを一度挟んで、実際このプロジェクトのタイトルを「ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン」としているんですが、プレオープンをクリスマスのときに充ててハレの日を楽しむ、本格スタートの1個前のステップも入れて、実際の3年目からは補助金がなくてもやっていけるようにしていきたいと思っています。

(山岡委員長) 今の時点ではまさに、やってみないとわからないことがあると思うんですが、トライアルがある程度終わったところで、3年目以降これぐらいの形でというのは、具体的な数字を含めて計画をつくっていただけるとよいかと思います。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) 今のご指摘にちょっと補足させていただきます。

昨年、ミライカナエル事業のステップアップコースをやらせていただきました。そのときはラウレアさんの子どもたちに対してお弁当を供給するというので、簡単ではありますが、ペースト食とか、そのあたりのメニューを開発して、去年1年頑張らせていただきました。ただ、その事業は今もなお継続しております、昨年よりも量もふえましたし、配達箇所もふえているんですね。去年の実例から言いますと、1年頑張った成果が今、当然出ていますし、このユニバーサルレストランに関しても、不安な要素はないと言えましょうになりますけれども、この2年間が無駄にならないように徐々に拡大していきたいと考えております。

(阿部委員) 大分ラウレアさんの経費を中に書いていただいてよくわかりました。私の印象では、初年度にケータリングのメニューをつかって、ケータリングをやるようにトライする。次年度はケータリングの事業は廃止して、レストランにトライするというふうな解釈をしておりますが、それでよろしいですか。

そうなりますと、18ページの支出のところでは装飾サービスというのが入っておりますけれども、これはレストランの装飾ではないんですか。ケータリングの装飾というのはちょっと違和感があるんですが。

(特定非営利活動法 laule'a) ケータリングは祝い膳みたいなものを考えています。うちの中でも装飾して、ハレの日を楽しんでもらいたいというのがありますので、生活介護という 18 歳以上の障がいのある方たちが生活している場で、うちでもお祝いを楽しめるようなケータリングを食事と一緒に届けられたらというふうに考えております。

(阿部委員) ケータリングに装飾を添えて送るということですね。わかりました。

1つだけ。ことしもケータリングをやられたとおっしゃっていますが、流動食でのケータリングは何食ぐらいありますでしょうか。

(特定非営利活動法 laule'a) 夏休みとか冬休みということになると児童がふえますので、1日 10 とか、ラウレア内でお願いしています。ふだんは生活介護の方たちだけが対象となっていますので、ペーストを食べているのはお二人、刻み食を利用している方が 2 名いらっしゃって、あとは通常のもを食べたりとか。夏休み、冬休みの利用が特に多いです。今、児童を中心に利用しています。

(阿部委員) 流動食でないのを含めて、今のところケータリングに、1日どれぐらいを出していらっしゃるんですか。

(特定非営利活動法 laule'a) ケータリングはスタッフも利用してまして、20 食ぐらいは注文させていただいています。そのお弁当の受け取りも生活介護のお仕事として、食育ラボさんのところに取りに行く、私たちの仕事としてやらせていただいています。

(阿部委員) 取りに行って、料理してというのもラウレアさんの仕事として。よくわかりました。

(木村委員) 2点、お尋ねさせていただきます。

1点目、システム開発・HP改修費でそれぞれ見積もられておりますが、これは具体的に業者さんに見積もりをとられてのことかどうか。

もう1点、先ほど阿部委員のほうからも質問がありました装飾サービスということで、具体的な金額を記載されております。私はレストランの装飾というイメージをしていたのですが、ここにケータリングとも書いてありまして、今お話にもあったように、そのようなことをなさるということですが、具体的にイメージがちょっと湧かなくて。どのぐらいのボリュームだったり、豪華さだったりということをなさるようなイメージか。皆さんにもイメージがわかるような感じでお話いただけるとありがたいです。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) まず最初に、システム開発のホームページのほうをご説明させていただきます。

これは実際、業者2社ぐらいに見積もりをとって、安めのほうをとっております。実際問題、ホームページ自体は静的なページに関してはそんなに高くはないんです。25万ぐらいのものでございます。ただし、今回はネットからのいろいろな予約であったり、該当者のアレルギー、刻みの度合い、ペースト状況、そういったものを選択して事前にお知らせいただくというところまで、ネットからオーダーができるような形になっていますので、その部分に関しては30万、35万ぐらいの費用がかかってしまうということで、これは自己資金の中でやらせていただこうかなと思っております。

装飾に関しては、若林のほうからコメントさせていただきます。

(特定非営利活動法 laule'a) 私たちラウレアは、放課後等デイサービスという小・中・高校生の主に障がいがある方たちが通っていたんですけれども、ことしから生活介護ということで、18歳以上の方たちが通う場所もつくりました。彼らの仕事を考えていかなければいけない、仕事で社会参加していきたいという中で、何ができるだろうと考えていたときに、染め物のお仕事を始めることになりました。

1名、利用者の方で、洋服をいつもねじったり、タオルをずっとねじっている方がいて、そのねじりの動作を何か生かせないか。ねじりをとめてしまうのではなくて、それを生かしたいという中で、「ねじり染め」という名称をつけまして、ねじったものにみんなでいろんな色をまぜて染めるという作業を始めました。先日、市役所の下の販売会でも販売させていただきました。

そのねじり染めでランチョンマットとか、上に下げるガーランドとか、可能であれば少しプレゼントになるようなものとか考えていきたいと思っています。私たちも実は始めたばかりで、どこまでできるかわからないんですけれども、こういった補助金をいただくことで少し新しい生地にチャレンジできたり、そういう可能性もあるのかなと思っています。

レストランについては、みんなで看板とか、大きな木材を彫ったり、ペンキで塗ったり、そういう作業も放課後等デイサービスと生活介護と、みんなでそろって作業することがありますので、そういったものもつくっていただけらなと思っております。

(林委員) ホームページのことでご質問させていただきたい。

単純に、どちらの団体のところにこのホームページを置くのかなということで質問させていただきます。既に両団体どちらかのホームページを変えていくものなのか、完全に両方で新しくサーバーを契約して持っていくものなのか。その辺をお聞きしたいと思いま

す。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) 外部サーバーをレンタルして、現行のそれぞれのホームページが置いてあるサーバーは利用しないで、独立した形でやっっていこうと思っております。協働でやっていきますので、仮にどっちかができなくなっても継続できるように、全部ソース等を公開とか、ID管理というのは一緒にやっっていこうと思っております。

(林委員) 先々月ぐらいですか、食事支援の子どもを持つお父さん、お母さんの「スナック都ろ美」というサイト、ご存じかもしれないんですが、ああいうのでいろんなことができるんだなと感じたので、せっかく大きなお金を使って会社をつくるのであれば、いずれはそういうところまで、できれば広げていっていただきたいなというふうに思いました。

(細沼部会長) ほかに委員の皆さん、よろしいでしょうか。

(坂井副委員長) 補助金がなくなった後の持続ということがとても大事だと思うんですけども、そのときにレストランの利用者の回数、どの程度あれば持続できていくのか、その見通しをお伺いしたい。

それから、利用者が一回使って、もういいやというふうになっちゃうと、だんだん先細りになっていくわけですね。繰り返し利用していただけるというのがとても大事になってくると思うんですが、これまでの資料で大体読み取れるんですが、繰り返し利用していただくための配慮というか、その辺についてお伺いしたいと思います。

(特定非営利活動法 laule'a) 難しいところですけども、今回もケータリングとユニバーサルレストランと、繰り返しトライアルということでやっていきたいと思うんですが、そのときに振り返りを私たちやってみたスタッフだけじゃなくて、利用された方の声を必ず聞くということをやっていきたいと思っております。利用してもらっただけじゃなくて、障がいのある方たちのよりよい生活、よりよい食生活の楽しみのためにみんなでつくっていききたいと思っておりますので、声を必ずきちんと聞いていくことを大切にしたい。リピートにつながるように努力したいと思っております。

(特定非営利活動法人湘南食育ラボ) 回数的には今、日曜日もしくは旗日での開催を計画しておりますので、最大月4回ということになってしまいますが、それ以上ふやせるかどうかというのは様子を見ながらということで、少なくとも月2回の開催は実施したいなと思っております。

(坂井副委員長) ハレの日、ここに例示でクリスマスとか正月とか書いてあるんですが、「など」ということで、クリスマス、正月は毎年来ますが、七五三などは人生にそう何回もないですね。そう考えると、例えば誕生日とか、そういうのも把握できる範囲で、いかがですかというご案内をしたりとか、おっしゃるように声を聞いて、それを次のサービスの向上にぜひつなげていっていただきたいなというふうに思います。

(特定非営利活動法 laule'a) 今お聞きしていて思ってたんですが、「ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン」ということも1つの大きなプロジェクトとしてやっていきたいと思いますが、プラスして、ペースト食を召し上がるご家族との勉強会とか、顔合わせの場とか、いろいろな使い方がしていけるかなと思いますので、この2年間の中でどんな可能性があるのか考えていきたいと思っています。

(細沼部会長) 以上で終了となります。特定非営利活動法人湘南食育ラボさん、ありがとうございました。

それでは、団体さんの入れかえをお願いいたします。

(団体入れ替え)

②関内イノベーションイニシアティブ株式会社

(細沼部会長) 司会進行を務めます細沼と申します。よろしくをお願いいたします。

それでは、関内イノベーションイニシアティブ株式会社さん、「湘南セカンドキャリア地域起業セミナー」について発表をお願いいたします。

(株式会社フジマニパブリッシング) 今回の事業に関しまして、先般お話しした部分と重なる部分もあると思いますが、主にお話ししたい部分としましては地域課題の抽出です。いろいろな地域の課題があって、その課題がどんなところに顕在化しているの見えるようにしていかなければいけない。この部分でどういった手法を使うかというところのお話をしたいと思っています。

1つは、まず課題を持つ方、課題を知る方が、地域のある場面でいらっしゃって、例えばそれは地域の首長さんだったり、自治会長さんだったり、商店会長さんだったりするわけですが、そういった方たちとちゃんとコミュニケーションをとる。その方たちが情報を持っていらっしゃることをちゃんと理解した上で、その方たちにちょっと教えていただくような、胸をかりるような形で、まず情報をこちらから取りに行く。

もう1つは、そういった形のお話がある一方で、そういった方たちのお耳にも届かないようなお話もきっとあるのではないか。そこに関してはフェイスブック等のSNSの活用、そして協働事業者である私どもフジマニパブリッシングのほうで、湘南経済新聞というインターネット上の媒体を運営しておりますので、そちらのほうで情報収集をしていきたいと考えております。

これまで発信を主にしてきたんですが、市民記者さんの募集といった形で、こちらから投げかけする場面もままありまして、実際、現状11万PV（ページビュー）、月当たり11万回くらい見られているという媒体にも成長してきましたので、記事を見ていただく方は恐らくこの地域に興味を持っていらっしゃる方だと思いますので、その方たちに対して、何か課題はありませんかということを投げかけることで、その顕在化を図っていききたいと考えております。

そちらを使うことで、まずは地域課題の抽出、恐らくそこから拾い切れないものもあると思うんですが、それらに関しても常に新しい方法、特に去年からことしにかけて、藤沢市の人口が1万人ほどふえているというのもありまして、そういう新たな流入の方たちにどうリーチするかというところは、恐らく現状、この市内で誰かが答えを持っているわけではないと思いますので、我々がその答えを見つける立場と考えて、常に新しい情報を集めていくという作業をしていきたいと考えております。

また、講座のお話にちょっと踏み込むんですが、実際、地域課題をどう解決するかというところに関しましては、常にサステナブルというか、循環的に持続可能であるかどうかということ念頭に置きたいと考えていまして、まずは50代、60代の方、セカンドキャリアというところをベースに置いて、その方たちの人生経験と知見をもとにベースの事業を立ち上げるわけですが、その方たちの足りないところで言うと、例えば体力だったり、若干の無茶さだったりというところがあると思いますので、それをこの辺に通学されている、もしくは在住されている若者の力をかりたいなど。

実際うちもNEKTONというコワーキングを少しやっていますが、そちらでも若手とシニアの連携というところに非常に力を入れております。世代間格差があるので共通の話題というのがないと思われがちなんですが、例えば一事例で言いますと、羽田さんという方がいらっしゃって、もともとソニーの技術者で藤沢にずっとお住まいだったんですけれども、リタイアするまでは藤沢にほとんど接点がなかった。奥様は料理教室をやられていて地域接点を持っていたので、奥様経由でうちのコワーキングスパー

スにまずお話に来て、お会いして話をすると、今ドローンにすごくハマっていてという話になって、じゃドローンのことをお話しただけませんかということで場を持ちましたら、ドローンのことを学ぶ会みたいな輪ができたという経緯があります。

そういった形で、軽々につなげるというふうには思っていないんですけれども、何か可能性があるんじゃないかと考えて、シニアが立ち上げて着想した事業を若手が続けていくみたいなのは、非常に美しい形なんじゃないかなと思っておりまして、そういった形で今回の講座を通して、シニアの方に立ち上げていただいた事業を若者が続けていく。そういう循環型の事業になると、2年目、3年目、4年目という形にも続いていくんじゃないかと思っています。

あとは、実際それを立ち上げるまでに費用的な部分がネックになる可能性もあると思いますので、そこに関しては地域をよくしたいと考えている、現状で何らかの事業で運営されている事業者さんから協賛をいただくような、協賛モデルみたいな形で最初のスタートの部分を維持できないか。初動の1年間といったところで事業運営ができて、ある程度自走できる形になってくれば、協賛に頼らず事業としては運営できて、それをさらに若手が活用できるというのは、非常によい形になるんじゃないかと思っています。(細沼部会長) 発表が終わりました。委員の皆様、ご質問はありますか。

(阿部委員) 22 ページの支出の部のところですが、セミナーの運営で70万円取っていらっしゃいます。この中で1回当たり4000円の人、5人で5時間。1回のセミナーに、時給4000円の人5時間、5人もかかるものなのでしょうか。どういう仕事をされますか。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) 今回、私どもの事業においては、こうした実際にお支払いしている単価を記載しているのと、あとはオンラインでの実施等もございまして、そこがかなり単価といたしますか、工数が上がってくるということもありまして、講座事業というのは、皆さんが見ているところでは、受付をやって対応するだけになってしまいがちなんですが、きちんと実際にかかる金額を入れていこうと思っています。これにつきましては、私どもが自己資金としてお出しする部分もあります。そういう意味できちんとした単価を挙げさせていただいているというふうにご理解いただけたらと思います。

(阿部委員) きちんとした単価の中、どういうことで25時間を使うんですかという話なんです。

(株式会社フジマニパブリッシング) 先ほどオンラインというお話をしましたけれども、例えば今、オンライン会議ツールだと Zoom をよく使うんですが、Zoom の講師の方がお話しする以外のバックグラウンドのところで、例えば少し遅刻して来た方がいらっしやったときに入室させるであるとか、あとは、チャットを使った質問が飛んでくるとか、そういったことをある程度把握して、それをちゃんと講師のほうにフィードバックする事務局みたいな役割の人間がもう 1 名いたほうが円滑だということがあります。

講師がお話をしながら、受講されている方のいろいろな事務的な部分も同時進行でやるというのはかなりスペシャリティーが必要で、恐らく講師の中には、それがあると集中できなくて講義の質が下がってしまう方もいるのではないかと。そういった部分でオンラインでかかる工数というか、人工の増加の部分で言うと、まずそこが 1 点あるかなと思っています。

(阿部委員) 会議の間の 2 時間はばっちり要ると思いますが、そのほかに 3 時間、5 時間ということで取っていますね。そのほかの人たち 4 人がかかり切っていると。講演会というのはそういうことがかかるのか。例えば講師の先生が 2 万円ですよ。お手伝いの方にも 2 万円を 5 人というのがちょっと違和感があったので、もう少し説明してください。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) もう 1 つ補足いたしますと、これは私がかかるもの、それから若い人がかかるもの、その平均値をとっているということでご理解いただけたらと思います。

(阿部委員) ちょっとわかりませんね。ずばり言いますと、150 万、200 万、我々が補助しまして、40 人育てていただいても、1 人 5 万円、その育つ人に払っている。これだけお金かかって、40 人、1 人 5 万円で育ててくださいということが、適当かなという疑問を持ちましたので。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) そこは私どもが自信を持ってお伝えしているところございまして、その都度いらしていただいている方の対応もそうですし、このコース自体は、今はこのときにかかっているものをこの数字で上げていますけれども、実際にはいろんな準備とか、相当に受講者の方とやりとりをするとか、そういうことも含めて考えております。そのところは意外と、NPO といいますか、私どももその支援をさせていただいている中で、数値として見ないケースもあります。これについては私どもとしては、お上げすることでかかるものはきちっとお出しして、自分たちも

持ち出すものは持ち出して進めていきたいというふうに考えております。

(阿部委員) それほどかかるものでしたら、3年目に本当に事業が続くのかな。これだけの補助金なしで、そのことができるのかなというのも心配しております。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) それにつきましても、今、三浦さんから説明させていただいたとおり、あとは今回お出ししている資料にもございますけれども、企業様との協業ということも考えておりますし、街のことに自分たちで動こうとする人たちがいることに対して価値を見出す企業様と連携しながらというふうに考えております。一方で、この講座は、私どもの経験上、地域課題の解決については地域の人しか対応し切れないというところもあります。

(株式会社フジマニパブリッシング) 地域課題の解決というところで、地域のプレーヤー、地域の間人がというところはもちろんあるんですけども、その方たちがこれは課題だなと思うのは誰でもできる一方で、それを解決するためにはこういうふうな手法が必要だよなというところまで高まるというか、ある程度知見を含めて、それこそ使命感みたいなものも含めてだと思んですが、そういったところに行き着くまでにはかなりステップが必要だろうな。そのステップを踏むために今回の講座があると思いますし、その講座を経て使命感に目覚めていただいた方は、きっと今回の講座に対しても愛着を持っていただいて、もし事業がうまくいった際には、そこから何らかのフィードバックですとか、後援、支援というのも出てくるんじゃないかなと思っていますので、そこも期待しての部分と考えていただけたらと思います。

(西上委員) なぜ、地域の課題に着目して起業するかということをお教えしてもらいたいです。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) シニアの方々がということですか。

(西上委員) この受講生だから、50代ですよ。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) 今、私どもがやっている講座については、特にこのセカンドキャリアで地域起業をしようとする人たちというのは、この先、地域で活動しようと思っても、自分が地域のことをよくわかってないとか、でも、いろいろな生活の中から出てくる疑問に対して、自分としていろいろかかわりたいけれども、どうしたらいいかわからないという人たちがいます。自分のスキルを生かして地域貢献したいけれども、それをどのように生かしたらいいかわからないという人たちがいて、その人たち向けに用意している講座というふうに私たちとしては位置づけております。

(株式会社フジマニパブリッシング) 補足させていただくと、課題というのはニーズなんだと思うんですね。これが課題だと思うということは、それが解決されるといいなと思う方が誰かいるわけで、その課題を解決することが、すなわちビジネスの種になるというところがございます。

今回、先ほどおっしゃっていただいたように、何か地域貢献したいという思いがある方が、その地域貢献が何でもいいのかなというところがベースにありまして、最低限、自分が動いた分ぐらいはお金は欲しいよねという部分がベースにありますので、その方たちが、何を解決したらみんなに喜んでもらった上でビジネスになるんだろう。そこがつまり課題というところになるので、そこで地域課題に着目していただく、そんな流れがつけられるんじゃないかなと考えております。

(西上委員) 50代だと、前も言ったかもしれないんですが、職場が藤沢ではなくてほかのところで働いているので、地域の課題がわからないというのは普通だと思うんですね。地域の課題がわからないのに地域の課題を発見して、「それ、課題ですよ」と言って、そこから「僕らがお金をもらって、解決してあげます」というふうに言うと、すごい違和感がありませんか。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) ただ、そう言いつつも、地域につながりたいという人はたくさんいるんですね。例えば地域の入り方を知らないとなったときに、そのチャンスがなかなかいただけないというケースもあります。私たちの講座の中では、地域課題を知るところで、藤沢市のほうから地域課題についてお話をいただいたり、先輩起業家の方々から、どうして地域起業に自分がかかわろうと思ったとか、その壁についてお話をいただいたりして、この中でいきなり起業家をとより、地域を知るベースをこの講座の中に織り込んで、最終的に地域課題を解決するというのはいくつかのスペックが必要で、こういう調査が必要で、こういうマインドがあったらできるんだなということを知っていただく内容になっております。

(西上委員) 「調査される迷惑」という言葉が文化人類学ではよく言われますけれども、課題を探しに来るほど迷惑なことはないわけですよ。地域のほうが長くそこに存在しているわけだから、後づけで来た人に「これ課題でしょ、これ課題でしょ」という出会いは、人間としてしたくないわけです。

むしろ逆に資源を見つけて、「これすごくいいですね。僕も何かしたいと思っているんですが、一緒にできることはありませんか」という入り方をしないと、このタイプの

起業塾って絶対失敗すると思うんですよ。相手とか地域のいいところを見つけて、そこいいですねと認めた上で、一緒にできることはありませんかという真っすぐな入り方をしていかないと、「これ課題じゃないですか。この課題を僕が解決してあげますよ」という入り方をしてきたら、本当に嫌われると思います。特にセカンドキャリアを考える、これは男性中心かもしれないですが、そのやり方は全国各地でまずいと思うんですよ。

なので、資源を見つけて一緒にできることはないか、かつ、そこに自分たちが楽しいことも入ってないと、お金もらうなら解決してあげますよ的な入り方に地域が受け取るということです。皆さんの意図としては違うかもしれないけど、そのやり方をすると、地域がそういうふうを受け取ってしまって、「あいつら、お金ないと来ないんだ」と思われてしまう可能性が大きいプログラムにこれはなっているんです。だから、プログラム自体をちょっと変えてもらわないとまずいんじゃないかなと思っています。

アドバイスなので、取り入れるかどうかはどちらでも構わないんですが、じゃないとまずいと前も言ったと思うんですが、そのプログラムが変わってないので、そこは変えないと入り方としてつまずくと思います。つまずいているのに、勉強していろんなインプットがどんどん入ってくると、今度は身動きがとれなくなって、せっかく5万円ぐらいかけて受講した講座が、実現に結びつかないことになっちゃうプログラムになっているんですね。そのあたり、もう一度ちゃんと考えていただいたほうがいいんじゃないかなと思います。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) ご意見としてありがたく頂戴したいと思います。私たち自身が地域課題を振りまいて、いろんな人を巻き込もうというふうには思っておりませんで、この講座自体、集まった人同士が自分たちの力を調整し合いながら地域に入っていくというプロセスを私たちとしては大事にしているつもりでおりまして、そのあたり、委員からもいろいろご意見をいただきながら進めていきたいと思いません。

(原田委員) 先ほどのお話で、シニアの発想で立ち上げた事業を若者が担い手となって、そこに企業の協賛があって、すごくすばらしい成功例だな、そうなればいいだろうと思うわけですが、これまで港北区でしたか、ほかの地区で2年ぐらいされていて、こういうようなケースが生まれてきているのかどうか。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) 1点は、ご自身のおうちを開放されて、コミュニティカフェを運営しているケースがあります。それまでサラリーマンで、何も

地域につながりがなかった方だったんですけれども、区からのいろいろな情報を得たり、既にやっていたらっしゃる方のお話を聞きに行ったりとか、仲間の話を聞きながら、そういったものを開いて、結果として、彼自身がコミュニティカフェを運営するだけではなくて、ご自身が介護福祉士の資格を取って、地域に必要なものは何だろうということも考えながら、あとは、実際稼ごうと思ったんですけれども、それでは稼げないよとお伝えはしていたけれども、やってみないとわからないということもあって、結果としてご自身のライフワークとして、そういった道を選ばれたというケースがございます。

あとは、ご自身の実家を継いで不動産業をやっていた方が、今、空き家、空き地の問題がありますよね、そういったものの相談を組み合わせながら、事業を立ち上げて仲間と一緒に進めていらっしゃる方もおられます。

そういったご自身のスキルを生かした事業ニーズもあって、それはそれで、単体で立ち上げてしまうとなかなかお客さんも得られないんですけれども、そういったプロセスを講座の受講生と共有することで、いろんな気づきを得ていい形で進んでいるという例もあります。

(原田委員) さっき特に西上さんのほうからお話があった点、私もちょっと共感するところがあって、今、自分が活動を地域でしていると、課題の抽出から始めるというところに、まず違和感を感じるんですね。私たちは資源だと思うんです。時間もあって、お金も給料をもらってれば、ある程度のことには割けるものがあるので、子どもの居場所であったりとか、高齢者の居場所ができる。ただ、それを継続していくのも、費用であったり、担い手であったり、家賃であったり、困っていることがいっぱいあって、そういう人たちが今回のような講座を受けたときに、マッチングのような、企業を合わせるとか、担い手なり、発想はいいけれども、実際動く人は若い人が欲しいとか、そういうマッチングをするような場であるというのであれば発想としては共感できるんですが、課題の抽出からという、サラリーマンで地域のことを何も知らない人が、上から目線で「やってやるよ」になっちゃいそうな気がして、最終的には結局、人なんだろうなど。彼の話の聞けば、そういう方がいらっしゃって、いい視点で動いていかれたので成功例になっているとは思いますが、そういうふう結びつくのかなというところが、少し不安に感じるところです。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) このご質問の中にも「上から目線」という言葉が何回か書かれていて、私たちのほうでも言葉が足りてないところがあるのかな

と思っていますけれども、2回目の講座の中ではご自身の棚卸をしていただくんですね。それもチームワークショップ的な形でやっていくんですが、それはまず、自分の資源に気がつくということと、自分を振り返りつつ、何が自分に合っているのかなど。でも、いきなりそれを地域に当ててもダメですよみたいな話もさせていただいて、まず、自分の鏡になるのはここにいる仲間だよというところから進めていくということをしておりますので、こちらとしては、そのあたりは丁寧にさせていただくスキルがあるかなとは思いますが、それを言語化できてなかったところは反省しております。

(林委員) 全体的な印象としては、私も西上委員、原田委員にちょっと近いことを思っているんですけども、一旦それをおいておいて、この両者でお互いの得意を生かして事業をやっていくというのはすごくいいことかなと思っています。それに対して助成金をつける意味というんですか、NPO的発想よりは株式会社の発想でいいんじゃないかなというのが、まだ落ち切っていないところなんですけれども、そこら辺を改めてお願いいたします。

(関内イノベーションイニシアティブ株式会社) ソーシャルビジネス・スタートアップ講座というのを私ども長年やってきておまして、そこは無償で7年間、300人の修了生を出してきました。そこで常々感じておりますのは、無料であるからこそ、行政からの一部お金をいただいて進めさせていただいているということもありますが、実際に課題を抱えている方と、何も地域課題に触れてこなくて、そのまま元気に過ごしていただいた方が一堂に会するということが、まさにこのセミナー自体がコミュニティーの場だなというふうに考えております。

実際は、その地域課題の解決だったら、新しい価値の創出というところは、行政とタイアップしてやるのが結構あるかな。それは今の介護保険だったり、いろいろな制度で足りないところを市民の力で、一般論としてそれを進めていこうというときに、それを有料にしてしまうと、本当に課題を抱えている当事者自体の参加がなくなってしまって、それを「この人、課題を抱えていますよ」とは言わないんですけども、一緒に参加することでいろんな気づきを得て、それぞれが成長してこられたというのを私としては見てきております。そういう意味では市行政とかかわった事業体というか、そういう仕組みで講座を提供させていただくというのが、私は一番いい形なのかなというふうに思っております。

今回も協賛モデルということでご提案していますけれども、もしかしたらこの2年の

間で、金融機関さんとのやりとりだったり、皆様のいろんなつながりの中からまた、ほかの事業のやり方が出てくるかなと思っておりまして、一つの方向性として、今回はそういうふうにまとめさせていただいたという感じになります。

(細沼部会長) では、以上で終了となります。関内イノベーションイニシアティブ株式会社さん、ありがとうございました。お疲れさまでした。ご退室いただいて結構です。

以上で各団体のヒアリングは終了となります。この後は一旦休憩となりますが、その前に、事務局から事務連絡をお願いいたします。

(事務局) 細沼部会長、どうもありがとうございました。

事務局よりご案内いたします。両団体のヒアリングは終了いたしましたので、ここで約5分間弱の休憩をとりたいと思います。再開は、会場の時計で2時過ぎごろを見ております。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後1時55分 休憩

午後2時 再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(2) 審査選考

(藤沢市情報公開条例第6条第3号に基づき非公開)

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(事務局) 審査選考ありがとうございました。

今後の流れについてですが、きょうが12月11日で、12月下旬ごろには結果通知を団体のほうへお送りしたいと思っております。

申請団体・協働相手は、来年4月からの事業スタートに向けまして、今回の審査会で出たご意見を踏まえた事業計画の微修正を行っていただくような形になるんですが、必要に応じて、今回、協働コーディネーターの手塚さんを含めて、協定書であったり覚書等を作成いただく流れとなっております。その行程の中で、我々市民自治推進課及び協

働コーディネーターも入らせていただきながら、スムーズに事業がスタートできるように調整させていただきます。

最後に、次回の委員会ですが、来年の2月24日、木曜日、午後6時からとなります。場所は市役所の会議室を予定しておりますが、Zoomでの開催も想定しております。詳細につきましては、後日、メールでご案内させていただきますので、ご確認くださいませよう、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、本日、朝日町駐車場にお車を止めた方につきましては、駐車券を事務局へお出しください。

事務局からは以上となります。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

閉会

(山岡委員長) それでは、以上をもちまして第8回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。本日は長時間にわたり、大変お疲れさまでした。

午後2時47分 閉会